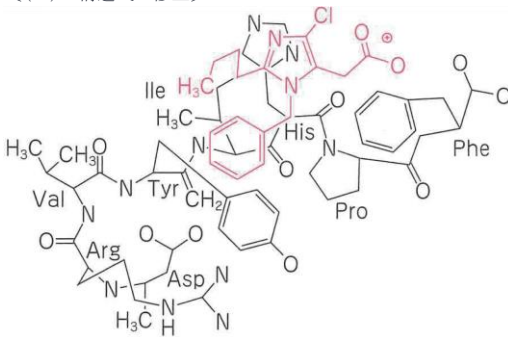
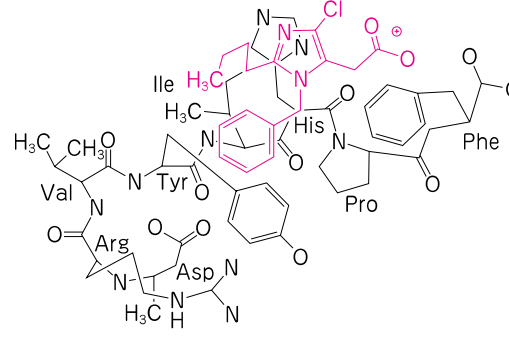
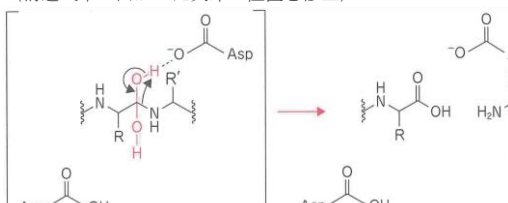
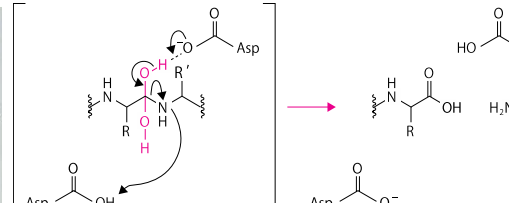


『ベーシック創薬化学』 第1刷 正誤表 (2015.3 化学同人)

このたびは本書をご購入いただき、誠にありがとうございます。  
 下記の箇所にご迷惑をいたします。ここに訂正するとともにお詫びいたします。

頁	修正箇所	誤	正
81	図 7-9	スルフェンアミドの構造式	1 番下の-OCH <sub>3</sub> をベンゼン環の左下から出す
84	図 8-1	アンジオテンシン I の構造の最後の箇所…Phe	Phe のあとに-His-Leu を追加 …Phe-His-Leu
93	図 8-8	[(b)の構造式の修正]	Tyr の近くにある CH <sub>2</sub> を 0 に変更
			
96	図 8-13	(構造式中の曲がった矢印の位置を修正)	
			
127	マージン	メチシリン	メチシレン
133	アシクロビル	5' の上にある罫線 (—) (アシクロビルの構造式の一部を修正)	5' の上にある罫線に矢印の頭を追記 (→)
145	図 12-6	アデニンデアミナーゼ (図中の下段の反応中の文字の変更)	アデノシンデアミナーゼ
170	図 13-8	FTY720-リン酸塩 (活性体) の構造	立体を示すくさびを表示
	下から 6 行目	…これが S1P <sub>1</sub> 受容体に結合して S1P <sub>1</sub> 受容体の内在化と…	…これが S1P <sub>1</sub> 受容体に <b>アゴニスト</b> として結合し、S1P <sub>1</sub> 受容体の内在化と…
	上から 7 行目	ヒドロキシ基が免疫抑制活性に重要であり、この構造はリン酸化された活性体においても反映されている。	ヒドロキシ基が <b>スフィンゴシキナーゼ</b> により選択的にリン酸化され、そのリン酸化体が免疫抑制活性に重要である。
	1 行目	プロドラッグであり、CYP(CYP3A4がもっとも関与)により活性代謝物A771726へ変換されて活性を発現する。	プロドラッグであり、活性代謝物 A771726 へ変換されて活性を発現する。
172	図 13-11	矢印の上の CYP3A4	CYP3A4 を削除
172	図 13-11	ピリミジンヌクレオチドの左隣りの構造	下記の図のように二重結合を追加
			